

久留米高等技術専門校 個別施設計画

施設類型	県民向け施設
整理番号	11
施設所管課	財産活用課

令和2年7月

✿福岡県✿

久留米高等技術専門校 個別施設計画

目次

第1章	概要	1
	(1) 対象施設の概要	
	(2) 対象施設の活用状況	
	(3) 計画期間	
	(4) 位置図等	
第2章	優先順位の考え方	6
	(1) 施設間の優先順位	
	(2) 施設内での優先順位	
第3章	個別施設の状態等	7
	(1) 個別施設の状態	
	(2) 施設の現存率	
	(3) 目標耐用年数	
第4章	対策の内容等	24
	(1) 改修・更新について	
	(2) 対策の平準化について	
	(3) 対策の内容等	

第1章 概要

(1) 対象施設の概要

対 象 施 設	久留米高等技術専門校		
所 管	総務部財産活用課		
整 理 番 号	11	竣 工 年	平成7年
所 在 地	久留米市合川町1786番2		
敷 地 面 積 (m ²)	15,639.89	建 築 面 積 (m ²)	5,060.82
主 構 造	S R C	延 床 面 積 (m ²)	8,857.70
主 要 建 築 物	本館、人材開発センター、体育館兼講堂、実習棟A、実習棟B		

(2) 対象施設の活用状況

建 物 の 名 称	本館棟				
棟 番 ・ 枝 番	42	—	1	竣 工 年	平成7年
建 築 面 積 (m ²)	1,078.78		延 床 面 積 (m ²)	2,895.81	
構 造 ・ 階 数	S R C 造 ・ 地上3階、塔屋1階				
各 階 面 積 及 び 用 途					
階 別	階 床 面 積 (m ²)	主 な 用 途 (室 名 他)			
PH1F	89.21	機械室			
3F	976.85	介護実習室、調理実習室、OA室			
2F	975.62	各科教室、視聴覚室、製図室			
1F	854.13	職員事務室、校長室、図書室、会議室			

建 物 の 名 称	人材開発センター				
棟 番 ・ 枝 番	42	—	2	竣 工 年	平成7年
建 築 面 積 (m ²)	1,065.88		延 床 面 積 (m ²)	1,746.19	
構 造 ・ 階 数	S R C 造 ・ 地上3階				
各 階 面 積 及 び 用 途					
階 別	階 床 面 積 (m ²)	主 な 用 途 (室 名 他)			
3F	501.32	視聴覚室、製図教室			
2F	581.34	多目的教室			
1F	663.53	事務室兼講師控室、建築科実習場			

建物の名称	体育館兼講堂				
棟番・枝番	42	—	3	竣工年	平成7年
建築面積(㎡)	774.38		延床面積(㎡)	834.28	
構造・階数	SRC造・地上2階				
各階面積及び用途					
階別	階床面積(㎡)	主な用途(室名他)			
2F	819.28	体育館兼講堂			
1F	15.00	トイレ			

建物の名称	実習棟A				
棟番・枝番	42	—	4	竣工年	平成7年
建築面積(㎡)	867.65		延床面積(㎡)	1,573.33	
構造・階数	SRC造・地上2階				
各階面積及び用途					
階別	階床面積(㎡)	主な用途(室名他)			
2F	705.68	パソコン室、測定室、制御実習室			
1F	867.65	メカトロニクス科実習場			

建物の名称	実習棟B				
棟番・枝番	42	—	5	竣工年	平成7年
建築面積(㎡)	1,123.94		延床面積(㎡)	1,657.90	
構造・階数	SRC造・地上2階				
各階面積及び用途					
階別	階床面積(㎡)	主な用途(室名他)			
2F	1,000.00	人材センター実習場			
1F	657.90	自動車整備科実習場			

久留米高等技術専門校は平成7年に竣工しました。当学校は、福岡県内唯一の訓練科目であるメカトロニクス科を有する職業訓練校であり、現在の訓練科目は、メカトロニクス科、自動車整備科、建築科、介護サービス科の4科を設置しています。

(3) 計画期間

計画期間は令和8年度までとします。

(4) 位置図等

①位置図



②施設写真

全景（本館棟）



全景（人材開発センター）



全景（体育館兼講堂）



全景（実習棟A）



全景（実習棟B）



第2章 優先順位の考え方

(1) 施設間の優先順位

当該施設は、築25年で目標使用耐用年数である65年に満たないことから、計画期間中の更新は計画していません。他の県有施設と比較して改修等を優先すべき個別事情は特にありませんが、施設を管理していく上で必要な対策を順次適切に行っていきます。

(2) 施設内での優先順位

当該施設は、鉄骨鉄筋コンクリート造りによる一般的な建物です。実習棟Bは、外壁改修工事を平成23年度に行っています。

体育館兼講堂は、吊天井であり早急な安全対策を講じる必要があるため、優先的に天井改修を行います。

また、いずれの建物についても、直接人的被害につながる恐れのある外壁等の改修及び建築物としての機能を維持するための屋上防水等の改修を優先的に行うこととし、その他の設備についても予防保全のための改修を計画的に行っていきます。

なお、改修に当たってはユニバーサルデザイン化を進めることとします。

第3章 個別施設の状態等

(1) 個別施設の状態

いずれの建物についても、屋上防水や外壁等に一部劣化が見られるほか、施設設備の不具合等が発見された場合には事後保全による修繕を行っていますが、予防保全による改修はできていない状態です。

(2) 建物全体の現存率

①本館棟

現存率算定表

施設名称	久留米高等技術専門学校		建物名称	本館棟			
所在地	久留米市合川町1786-2		棟番・枝番	41	-	1	
建築年	平成7年	建築面積	1,078.78 m ²	現存率	79.3	想定耐用年数	22年
構造・階数	SRC	3	延面積	2,895.81 m ²		65年	
区分	項目及び①評価比率(%)		仕様	経過年数	②各部位の現存率	①×②	
構造	躯体	40	SRC	22	100.0	40.00	
	小計					40.00	
主要部仕上げ	屋根・防水	20	アスファルト防水	22	66.7	13.34	
	外壁	20	塗装タイルコンクリート	22	60.0	12.00	
	小計					25.34	
電気設備	受変電設備	10		22	70.0	7.00	
	小計					7.00	
機械設備	給排水・衛生・給湯設備	10		22	70.0	7.00	
	小計					7.00	
合計						79.34	

※平成29年施設調査時のデータ

この結果、久留米高等技術専門学校の本館棟の現存率は、「79.3」となります。

○建物各部位の現存率（本館棟）

調査部位	種類・形式等	各部位の現存率	判定項目	判定
躯体	S R C	100.0	耐震診断による Is 値 ¹	Is 値が 1.0 以上 若しくは新耐震基準
屋根	アスファルト防水	66.7	防水層からの漏水 又はその痕跡	・部分的にひび割れ や部材の劣化がある ・小数の部材に少し の劣化がある
			防水層の劣化	・部分的にひび割れ や部材の劣化がある ・小数の部材に少し の劣化がある
			経年（新設若しくは改 修後）	経年 20 年以上
外壁	塗装タイルコン クリート	60.0	外壁のはく落、浮き、 ひび割れ等の劣化	・ 広範囲に少しずつ の劣化がある ・ 多数の部材に各々 少しずつ劣化部分 がある ・ 部分修繕でも対応 可能
			漏水の発生・痕跡の有 無	・ 広範囲に少しずつ の劣化がある ・ 多数の部材に各々 少しずつ劣化部分 がある ・ 部分修繕でも対応 可能
内壁	石こうボードE Pタイル貼り仕 上げ無しビニ ールクロス	60.0	劣化	仕上げ材等の劣化が 多く認められるが、 部分修繕で対応可能
天井	吸音板石こうボ ードEP仕上げ あり化粧石こう ボード	80.0		
床	タイル貼りビニ ールシート張り OAフロア	80.0		
建具	アルミ	100.0	劣化	特に問題なし
			開閉作動・取付け状態	特に問題なし
電灯・電話設 備	電灯設備 電気時計 拡声設備 避雷設備 電話設備	60.0	定期点検等の結果	特に問題なし
			経年（新設後更新後）	経年 20 年以上
受変電設備	あり	70.0	定期点検等の結果	特に問題なし
			経年（新設後更新後）	経年 20 年以上

¹ Is 値：構造耐震指標のことであり、この指標が大きくなると建築物の耐震性能が高くなることを意味する。

調査部位	種類・形式等	各部位の 現存率	判定項目	判定
自家発電設備	—	—	定期点検等の結果	—
			経年（新設後更新後）	—
動力設備	動力設備方式 中央監視制御	40.0	経年（新設後更新後）	経年 20 年以上
非常用照明・ 火災報知設備	非常用照明 火災報知設備	70.0	定期点検等の結果	特に問題なし
			経年（新設後更新後）	経年 15 年以上
その他設備	インターホン TV 共同受信 防犯設備等 表示設備	20.0	経年（新設後更新後）	経年 20 年以上
空気調和・換 気・排煙設備	空調方式 冷熱源機器 温熱源機器 排煙方式	70.0	定期点検等の結果	特に問題なし
			経年（新設後更新後）	経年 15 年以上
給排水・衛 生・給湯設備	給水方式 水槽 給湯 ガス	70.0	定期点検等の結果	特に問題なし
			経年（新設後更新後）	経年 20 年以上
消火設備	—	80.0	定期点検等の結果	特に問題なし
			経年（新設後更新後）	経年 20 年以上
エレベーター 設備	—	80.0	定期点検等の結果	特に問題なし
			経年（新設後更新後）	経年 20 年以上

②人材開発センター

現存率算定表

施設名称	久留米高等技術専門学校		建物名称	人材開発センター				
所在地	久留米市合川町1786-2		棟番・枝番	41	-	2	築年数	22年
建築年	平成7年	建築面積	1,065.88 m ²	現存率	79.3	想定耐用年数	65年	
構造・階数	SRC 3	延面積	1,746.19 m ²					
区分	項目及び①評価比率(%)		仕様	経過年数	②各部位の現存率	①×②		
構造	躯体	40	SRC	22	100.0	40.00		
	小計						40.00	
主要部 仕上げ	屋根・防水	20	アスファルト防水	22	66.7	13.34		
	外壁	20	塗装タイル	22	60.0	12.00		
	小計						25.34	
電気設備	受変電設備	10		22	70.0	7.00		
	小計						7.00	
機械設備	給排水・衛生・給湯設備	10		22	70.0	7.00		
	小計						7.00	
合計						79.34		

※平成29年施設調査時のデータ

この結果、久留米高等技術専門学校人材開発センターの現存率は、「79.3」となります。

○建物各部位の現存率（人材開発センター）

調査部位	種類・形式等	各部位の現存率	判定項目	判定
躯体	S R C	100.0	耐震診断による Is 値 ²	Is 値が 1.0 以上 若しくは新耐震基準
屋根	アスファルト防水	66.7	防水層からの漏水 又はその痕跡	・部分的にひび割れ や部材の劣化がある ・小数の部材に少し の劣化がある
			防水層の劣化	・部分的にひび割れ や部材の劣化がある ・小数の部材に少し の劣化がある
			経年（新設若しくは改 修後）	経年 20 年以上
外壁	塗装タイル	60.0	外壁のはく落、浮き、 ひび割れ等の劣化	・広範囲に少しずつ の劣化がある ・多数の部材に各々 少しずつ劣化部分 がある ・部分修繕でも対応 可能
			漏水の発生・痕跡の有 無	・広範囲に少しずつ の劣化がある ・多数の部材に各々 少しずつ劣化部分 がある ・部分修繕でも対応 可能
内壁	石こうボードE Pタイル貼り仕 上げありビニ ールシート張り	80.0	劣化	仕上げ材等に劣化が 部分的に発生してい るが機能上問題なし
天井	吸音板仕上げ無 し化粧石こうボ ード	80.0		
床	タイル貼りOA フロア	80.0		
建具	アルミ	80.0	劣化	仕上げ材等に劣化が 部分的に発生してい るが機能上問題なし
			開閉作動・取付け状態	仕上げ材等に劣化が 部分的に発生してい るが機能上問題なし
電灯・電話設 備	電灯設備 電気時計 拡声設備 電話設備	60.0	定期点検等の結果	特に問題なし
			経年（新設後更新後）	経年 20 年以上
受変電設備	あり	70.0	定期点検等の結果	特に問題なし
			経年（新設後更新後）	経年 20 年以上

² Is 値：構造耐震指標のことであり、この指標が大きくなると建築物の耐震性能が高くなることを意味する。

調査部位	種類・形式等	各部位の 現存率	判定項目	判定
自家発電設備	—	—	定期点検等の結果	—
			経年（新設後更新後）	—
動力設備	動力設備方式 中央監視制御	40.0	経年（新設後更新後）	経年 20 年以上
非常用照明・ 火災報知設備	非常用照明 火災報知設備	70.0	定期点検等の結果	特に問題なし
			経年（新設後更新後）	経年 15 年以上
その他設備	T V 共同受信 防犯設備等 表示設備	20.0	経年（新設後更新後）	経年 20 年以上
空気調和・換 気・排煙設備	空調方式 冷熱源機器 温熱源機器 排煙方式	70.0	定期点検等の結果	特に問題なし
			経年（新設後更新後）	経年 15 年以上
給排水・衛 生・給湯設備	給水方式 水槽 給湯 ガス	70.0	定期点検等の結果	特に問題なし
			経年（新設後更新後）	経年 20 年以上
消火設備	—	80.0	定期点検等の結果	特に問題なし
			経年（新設後更新後）	経年 20 年以上
エレベーター 設備	—	—	定期点検等の結果	—
			経年（新設後更新後）	—

③体育館兼講堂

現存率算定表

施設名称	久留米高等技術専門学校		建物名称	体育館兼講堂			
所在地	久留米市合川町1786-2		棟番・枝番	41	-	3	
建築年	平成 7年	建築面積	774.38 m ²	現存率	79.3	想定耐用年数	22 年
構造・階数	SRC	2	延面積	834.28 m ²		65 年	
区分	項目及び①評価比率(%)		仕様	経過年数	②各部位の現存率	①×②	
構造	躯体	40	SRC	22	100.0	40.00	
	小計					40.00	
主要部仕上げ	屋根・防水	20	アスファルト防水	22	66.7	13.34	
	外壁	20	塗装タイルコンクリート	22	60.0	12.00	
	小計					25.34	
電気設備	受変電設備	10		22	70.0	7.00	
	小計					7.00	
機械設備	給排水・衛生・給湯設備	10		22	70.0	7.00	
	小計					7.00	
合計						79.34	

※平成 29 年施設調査時のデータ

この結果、久留米高等技術専門校の体育館兼講堂の現存率は、「79.3」となります。

○建物各部位の現存率（体育館兼講堂）

調査部位	種類・形式等	各部位の現存率	判定項目	判定
躯体	S R C	100.0	耐震診断による Is 値 ³	Is 値が 1.0 以上 もしくは新耐震基準
屋根	アスファルト防水	66.7	防水層からの漏水 またはその痕跡	・部分的にひび割れ や部材の劣化がある ・小数の部材に少し の劣化がある
			防水層の劣化	・部分的にひび割れ や部材の劣化がある ・小数の部材に少し の劣化がある
			経年（新設もしくは改 修後）	経年 20 年以上
外壁	塗装タイルコン クリート	60.0	外壁のはく落、浮き、 ひび割れ等の劣化	・広範囲に少しずつ の劣化がある ・多数の部材に各々 少しずつ劣化部分 がある ・部分修繕でも対応 可能
			漏水の発生・痕跡の有 無	・広範囲に少しずつ の劣化がある ・多数の部材に各々 少しずつ劣化部分 がある ・部分修繕でも対応 可能
内壁	石こうボードE P仕上げあり	40.0	劣化	仕上げ材等の劣化が 多く認められるが、 部分修繕で対応可能
天井	吸音板仕上げあり 化粧石こうボ ード	80.0		
床	ビニールシート 張りフローリン グ	80.0		
建具	アルミ	80.0	劣化	仕上げ材等に劣化が 部分的に発生してい るが機能上問題なし
			開閉作動・取付け状態	仕上げ材等に劣化が 部分的に発生してい るが機能上問題なし
電灯・電話設 備	電灯設備 電気時計 拡声設備 電話設備	60.0	定期点検等の結果	特に問題なし
			経年（新設後更新後）	経年 20 年以上
受変電設備	あり	70.0	定期点検等の結果	特に問題なし
			経年（新設後更新後）	経年 20 年以上

³ Is 値：構造耐震指標のことであり、この指標が大きくなると建築物の耐震性能が高くなることを意味する。

調査部位	種類・形式等	各部位の 現存率	判定項目	判定
自家発電設備	—	—	定期点検等の結果	—
			経年（新設後更新後）	—
動力設備	動力設備方式 中央監視制御	—	経年（新設後更新後）	—
非常用照明・ 火災報知設備	非常用照明 火災報知設備	70.0	定期点検等の結果	特に問題なし
			経年（新設後更新後）	経年 15 年以上
その他設備	T V 共同受信 防犯設備等 表示設備	20.0	経年（新設後更新後）	経年 20 年以上
空気調和・換 気・排煙設備	空調方式 冷熱源機器 温熱源機器 排煙方式	70.0	定期点検等の結果	特に問題なし
			経年（新設後更新後）	経年 15 年以上
給排水・衛 生・給湯設備	給水方式 水槽 給湯 ガス	70.0	定期点検等の結果	特に問題なし
			経年（新設後更新後）	経年 20 年以上
消火設備	—	80.0	定期点検等の結果	特に問題なし
			経年（新設後更新後）	経年 20 年以上
エレベーター 設備	—	—	定期点検等の結果	—
			経年（新設後更新後）	—

④実習棟A

現存率算定表

施設名称	久留米高等技術専門校		建物名称	実習棟A				
所在地	久留米市合川町1786-2		棟番・枝番	41	-	4	築年数	22年
建築年	平成7年	建築面積	867.65 m ²	現存率	79.3	想定	65年	
構造・階数	SRC 2	延面積	1,573.33 m ²			耐用年数		
区分	項目及び①評価比率(%)		仕様	経過年数	②各部位の現存率	①×②		
構造	躯体	40	SRC	22	100.0	40.00		
	小計						40.00	
主要部 仕上げ	屋根・防水	20	アスファルト防水	22	66.7	13.34		
	外壁	20	塗装タイルコンクリート	22	60.0	12.00		
	小計						25.34	
電気設備	受変電設備	10		22	70.0	7.00		
	小計						7.00	
機械設備	給排水・衛生・給湯設備	10		22	70.0	7.00		
	小計						7.00	
合計						79.34		

※平成29年施設調査時のデータ

この結果、久留米高等技術専門校の実習棟Aの現存率は、「79.3」となります。

○建物各部位の現存率（実習棟A）

調査部位	種類・形式等	各部位の現存率	判定項目	判定
躯体	S R C	100.0	耐震診断による Is 値 ⁴	Is 値が 1.0 以上 もしくは新耐震基準
屋根	アスファルト防水	66.7	防水層からの漏水 またはその痕跡	・部分的にひび割れ や部材の劣化がある ・小数の部材に少し の劣化がある
			防水層の劣化	・部分的にひび割れ や部材の劣化がある ・小数の部材に少し の劣化がある
			経年（新設もしくは改 修後）	経年 20 年以上
外壁	塗装タイルコン クリート	60.0	外壁のはく落、浮き、 ひび割れ等の劣化	・広範囲に少しずつ の劣化がある ・多数の部材に各々 少しずつ劣化部分 がある ・部分修繕でも対応 可能
			漏水の発生・痕跡の有 無	・広範囲に少しずつ の劣化がある ・多数の部材に各々 少しずつ劣化部分 がある ・部分修繕でも対応 可能
内壁	石こうボードE Pタイル貼りモ ルタルE P仕上 げあり	60.0	劣化	仕上げ材等の劣化が 多く認められるが、 部分修繕で対応可能
天井	ビニールシート 張りモルタル塗 り	80.0		
床	タイル貼り、ビ ニール床タイル	80.0		
建具	アルミ	80.0	劣化	仕上げ材等に劣化が 部分的に発生してい るが機能上問題なし
			開閉作動・取付け状態	仕上げ材等に劣化が 部分的に発生してい るが機能上問題なし
電灯・電話設 備	電灯設備 電気時計 拡声設備 電話設備	60.0	定期点検等の結果	特に問題なし
			経年（新設後更新後）	経年 20 年以上
受変電設備	あり	70.0	定期点検等の結果	特に問題なし
			経年（新設後更新後）	経年 20 年以上

⁴ Is 値：構造耐震指標のことであり、この指標が大きくなると建築物の耐震性能が高くなることを意味する。

調査部位	種類・形式等	各部位の 現存率	判定項目	判定
自家発電設備	-	-	定期点検等の結果	-
			経年（新設後更新後）	-
動力設備	動力設備方式 中央監視制御	-	経年（新設後更新後）	-
非常用照明・ 火災報知設備	非常用照明 火災報知設備	70.0	定期点検等の結果	特に問題なし
			経年（新設後更新後）	経年 15 年以上
その他設備	T V 共同受信 防犯設備等	20.0	経年（新設後更新後）	経年 20 年以上
空気調和・換 気・排煙設備	空調方式 冷熱源機器 温熱源機器 排煙方式	70.0	定期点検等の結果	特に問題なし
			経年（新設後更新後）	経年 15 年以上
給排水・衛 生・給湯設備	給水方式 水槽	70.0	定期点検等の結果	特に問題なし
			経年（新設後更新後）	経年 20 年以上
消火設備	-	80.0	定期点検等の結果	特に問題なし
			経年（新設後更新後）	経年 20 年以上
エレベーター 設備	-	-	定期点検等の結果	-
			経年（新設後更新後）	-

⑤実習棟B

現存率算定表

施設名称	久留米高等技術専門学校		建物名称	実習棟B				
所在地	久留米市合川町1786-2		棟番・枝番	41	-	5	築年数	22年
建築年	平成7年	建築面積	1,123.94 m ²	現存率	87.3	想定耐用年数	65年	
構造・階数	SRC 2	延面積	1,657.90 m ²					
区分	項目及び①評価比率(%)		仕様	経過年数	②各部位の現存率	①×②		
構造	躯体	40	SRC	22	100.0	40.00		
	小計						40.00	
主要部 仕上げ	屋根・防水	20	アスファルト防水	22	66.7	13.34		
	外壁	20	塗装タイルコンクリート H23_外壁	6	100.0	20.00		
	小計						33.34	
電気設備	受変電設備	10		22	70.0	7.00		
	小計						7.00	
機械設備	給排水・衛生・給湯設備	10		22	70.0	7.00		
	小計						7.00	
合計						87.34		

※平成29年施設調査時のデータ

この結果、久留米高等技術専門学校の実習棟Bの現存率は、「87.3」となります。

○建物各部位の現存率（実習棟B）

調査部位	種類・形式等	各部位の現存率	判定項目	判定
躯体	R C	100.0	耐震診断による Is 値 ⁵	Is 値が 1.0 以上 もしくは新耐震基準
屋根	アスファルト防水	66.7	防水層からの漏水 またはその痕跡	・部分的にひび割れ や部材の劣化がある ・小数の部材に少し の劣化がある
			防水層の劣化	・部分的にひび割れ や部材の劣化がある ・小数の部材に少し の劣化がある
			経年（新設もしくは改 修後）	経年 20 年以上
外壁	塗装タイルコン クリート	100.0	外壁のはく落、浮き、 ひび割れ等の劣化	・劣化部分が少ない ・汚れがある程度 ・新築・改築 10 年 未満
			漏水の発生・痕跡の有 無	・劣化部分が少ない ・汚れがある程度 ・新築・改築 10 年 未満
内壁	石こうボードE PモルタルE P 仕上げあり	80.0	劣化	仕上げ材等に劣化が 部分的に発生してい るが機能上問題なし
天井	吸音板コンクリ ート打放し仕上 げあり化粧石こ うボード	80.0		
床	ビニールシート 張りモルタル塗 り	80.0		
建具	アルミ	80.0	劣化	仕上げ材等に劣化が 部分的に発生してい るが機能上問題なし
			開閉作動・取付け状態	仕上げ材等に劣化が 部分的に発生してい るが機能上問題なし
電灯・電話設 備	電灯設備 電気時計 拡声設備 電話設備	60.0	定期点検等の結果	特に問題なし
			経年（新設後更新後）	経年 20 年以上
受変電設備	あり	70.0	定期点検等の結果	特に問題なし
			経年（新設後更新後）	経年 20 年以上
自家発電設備	-	-	定期点検等の結果	-
			経年（新設後更新後）	-

⁵ Is 値：構造耐震指標のことであり、この指標が大きくなると建築物の耐震性能が高くなることを意味する。

調査部位	種類・形式等	各部位の 現存率	判定項目	判定
動力設備	動力設備方式 中央監視制御	-	経年（新設後更新後）	-
非常用照明・ 火災報知設備	非常用照明 火災報知設備	70.0	定期点検等の結果	特に問題なし
			経年（新設後更新後）	経年 15 年以上
その他設備	T V 共同受信 防犯設備等	20.0	経年（新設後更新後）	経年 20 年以上
空気調和・換 気・排煙設備	空調方式 冷熱源機器 温熱源機器 排煙方式	70.0	定期点検等の結果	特に問題なし
			経年（新設後更新後）	経年 15 年以上
給排水・衛 生・給湯設備	給水方式 水槽	70.0	定期点検等の結果	特に問題なし
			経年（新設後更新後）	経年 20 年以上
消火設備	-	80.0	定期点検等の結果	特に問題なし
			経年（新設後更新後）	経年 20 年以上
エレベーター 設備	-	-	定期点検等の結果	-
			経年（新設後更新後）	-

(3) 目標耐用年数

①本館棟

建築年	経年	耐震性能		鉄筋 腐食度	平均 圧縮強度	中性化 深さ	目標 耐用年数
		耐震基準	補強後の I S 値				
1995	25	新	-	-	-	-	65年

②人材開発センター

建築年	経年	耐震性能		鉄筋 腐食度	平均 圧縮強度	中性化 深さ	目標 耐用年数
		耐震基準	補強後の I S 値				
1995	25	新	-	-	-	-	65年

③体育館兼講堂

建築年	経年	耐震性能		鉄筋 腐食度	平均 圧縮強度	中性化 深さ	目標 耐用年数
		耐震基準	補強後の I S 値				
1995	25	新	-	-	-	-	65年

④実習棟A

建築年	経年	耐震性能		鉄筋 腐食度	平均 圧縮強度	中性化 深さ	目標 耐用年数
		耐震基準	補強後の I S 値				
1995	25	新	-	-	-	-	65年

⑤実習棟B

建築年	経年	耐震性能		鉄筋 腐食度	平均 圧縮強度	中性化 深さ	目標 耐用年数
		耐震基準	補強後の I S 値				
1995	25	新	-	-	-	-	65年

経年による部分的な劣化は見られるものの、建物に大きな問題が無いいため、久留米高等技術専門校の本館棟、人材開発センター、体育館兼講堂、実習棟A及び実習棟Bの目標耐用年数を原則どおり65年（残年数を40年）と設定します。

第4章 対策の内容等

(1) 改修・更新について

いずれの建物についても、築25年で耐用年数を65年と設定しているため、残利用年数は40年となり、計画期間内に施設の更新(建替え)を行う予定はありません。

計画期間内の改修費用は、本館棟が約1億4千万円、人材開発センターが約9千万円、体育館兼講堂が約1億9千万円、実習棟Aが約7千万円、実習棟Bが約7千万円となっています。

(2) 対策の平準化について

優先順位の考え方に沿った上で費用や事務負担軽減等を図る観点から平準化を行い、順次改修を行うこととします。

まずは、体育館兼講堂の天井改修を行います。次に、本館棟、人材開発センター、体育館兼講堂、実習棟A及び実習棟Bについて、空調設備、屋上防水及び外壁等の改修を行います。

(3) 対策の内容等

以上の結果、計画期間内の取り組みは以下のとおりとなりますが、取り組みの進捗状況等を踏まえ、必要に応じて計画の見直しを行うことがあります。

①本館棟					(百万円)	計
区分	項目	実施時期				
		令和2年度	令和3～5年度	令和6～8年度		
主要部仕上げ	屋根・防水、内 壁、天井、建具	0	0	34	34	
電気設備	電灯・電話設備、 自家発電設備、動 力設備、非常用照 明・火災報知設 備、その他の設備	0	0	21	21	
機械設備	給排水・給湯・ガ ス設備、空気調 和・排煙設備、消 火設備、エレベ ーター	0	20	64	84	
その他		0	0	0	0	
	計	0	20	119	139	

②人材開発センター					(百万円)	計
区分	項目	実施時期				
		令和2年度	令和3～5年度	令和6～8年度		
主要部仕上げ	屋根・防水、内 壁、天井、建具	0	0	20	20	
電気設備	電灯・電話設備、 自家発電設備、動 力設備、非常用照 明・火災報知設 備、その他の設備	0	0	13	13	
機械設備	給排水・給湯・ガ ス設備、空気調 和・排煙設備、消 火設備、エレベ ーター	0	12	39	51	
その他		0	0	0	0	
計		0	12	72	84	

③体育館兼講堂					(百万円)	計
区分	項目	実施時期				
		令和2年度	令和3～5年度	令和6～8年度		
主要部仕上げ	屋根・防水、内 壁、天井、建具	151	0	10	161	
電気設備	電灯・電話設備、 自家発電設備、動 力設備、非常用照 明・火災報知設 備、その他の設備	0	0	1	1	
機械設備	給排水・給湯・ガ ス設備、空気調 和・排煙設備、消 火設備、エレベ ーター	0	6	19	25	
その他		0	0	0	0	
計		151	6	30	187	

④実習棟A					(百万円)	計
区分	項目	実施時期				
		令和2年度	令和3～5年度	令和6～8年度		
主要部仕上げ	屋根・防水、内 壁、天井、建具	0	0	18	18	
電気設備	電灯・電話設備、 自家発電設備、動 力設備、非常用照 明・火災報知設 備、その他の設備	0	0	1	1	
機械設備	給排水・給湯・ガ ス設備、空気調 和・排煙設備、消 火設備、エレベ ーター	0	11	35	46	
その他		0	0	0	0	
計		0	11	54	65	

⑤実習棟B					(百万円)	計
区分	項目	実施時期				
		令和2年度	令和3～5年度	令和6～8年度		
主要部仕上げ	屋根・防水、内 壁、天井、建具	0	0	19	19	
電気設備	電灯・電話設備、 自家発電設備、動 力設備、非常用照 明・火災報知設 備、その他の設備	0	0	1	1	
機械設備	給排水・給湯・ガ ス設備、空気調 和・排煙設備、消 火設備、エレベ ーター	0	12	37	49	
その他		0	0	0	0	
計		0	12	57	69	

※上記は実際の予算や事業費等とは異なります。